



資生堂/アンフィニ争議支援共闘会議

資生堂/アンフィニ争議・FAXニュース

NO. 6 (10. 10. 26)

横浜市神奈川区松本町1-3-32

TEL 045-314-4021

FAX 045-314-9091

URL http://anfini-union.com/

10/19第2回横浜地裁 池田和代さんが意見陳述!

じっと堪えた
怒りの涙に!

一瞬、誰もが感動し時間が止まった!

支援者で満席(48席)の下、池田分会長が意見陳述した内容(一部省略)を紹介します。



池田和代分会長

菊地敏恵分会員

報告する露木美香分会書記長

原告の池田和代です。2000年の11月頃から資生堂の鎌倉工場で働き始めました。その後09年に解雇されるまで、ずっと鎌倉工場で働いてきました。私たちが形式的に所属する会社は、私たちの意思とは関係なく何度も変わり、同様に派遣から請負になったりしましたが、みんなが同じ工場、同じ仕事をしてきたのです。

口紅製造の仕事を教えてくれたのは資生堂のベテランパートさんでした。工場では派遣も資生堂の正社員もパートさんも一緒に働いていました。

ここで厳しく教えられたのは検品です。検品は不良商品を市場に出荷しないための最終工程で、とても重要ですが私たち派遣もこのような大事な作業を任されることがありました。

私はサブリーダーになり、02年頃からラインリーダーになりましたが派遣労働者から昇格したのは私が初めてでした。仕事は資生堂の正社員の方から教わりました。昇格後は資生堂の正社員ラインリーダーの方と同等、時にはそれ以上困難な仕事も与えられました。さらに、サブリーダー以下の従業員がミスすれば最終的にはすべての責任をラインリーダーが取らなければならないことになり大変プレッシャーの大きいものでした。

しかし私たちは派遣社員であり請負社員であるという地位は変わりませんでした。

ラインリーダーの仕事は難しく精神的にも、とても大きな負荷がありました。私には「世界の女性が愛する資生堂の化粧品を作っている」という自負がありました。台湾や中国の見学者や研修生が来た時に私は通訳として借り出されたことがありますが、そのことに誇りを持っていました。

それなのに、資生堂は減産通告して、私たちのことを物のように簡単に切り捨てました。

私の給料は約22万円で、二人の子どもたちの学費でなくなっていました。子どもたちを大学に進学させることができましたが、解雇された時、長男は大学院を受験していました。収入がなくなり断念させなければならぬかと思うと悔しくて申し訳なくてたまりませんでした。幸い国立の大学院に入れて奨学金で生活を補っているものの、社会に出る前に借金をさせてしまったことが申し訳ないです。

次男は19時から24時までアルバイトをし、片道1時間かけても自転車を出かけ交通費を節約しています。

食費もなるべく切り詰め、主人や子どもたちもできる限りの努力をしていますが生活はとても苦しいです。

こんなことが許されるのでしょうか。

私たち原告は一日も早く現場に復帰して、働き、安心して人間らしい生活をしたいという思いからこの裁判を起こしたのです。



女性傍聴支援者のみなさんと記念写真

物品販売のお願い

現在闘争支援のため物品販売のお願いをしております。

物品のパンフを各組織・団体にお届けしておりますのでご協力をおねがいします



当面の 日程

10月29日(金) 神奈川労連争議支援総行動 10時半~11時15分 資生堂鎌倉工場門前

11月15日(月) 第4回支援共闘常任幹事会 18時半~ 健康福祉センター901号